



農芸化学

2021年度新規採用職員インタビュー

「6次化で福島県の農業を支えたい」

所属

福島県農業総合センター

農業短期大学校 研修部

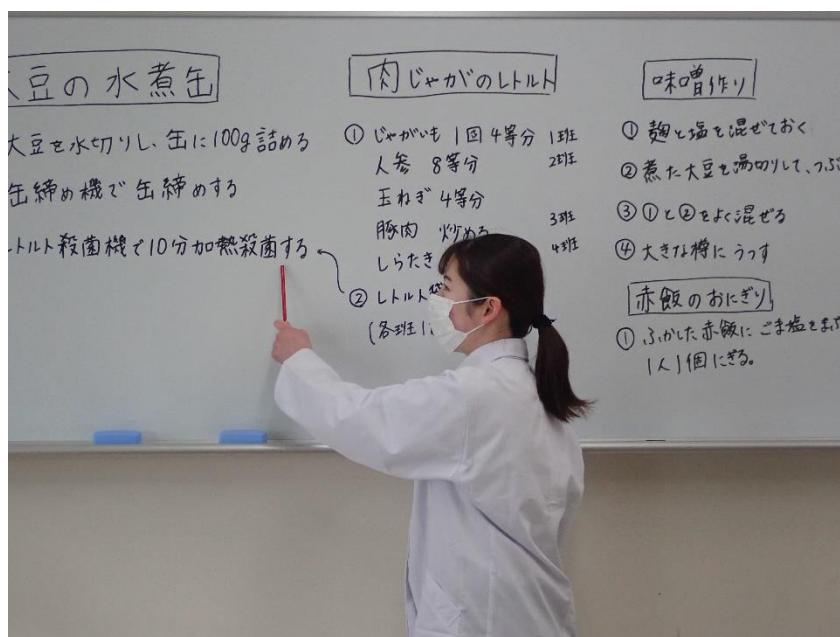
Q. 現在の仕事内容とそのやりがいについて教えてください。

A. 主な業務は、農産加工研修の実施に関することです。この研修は、これから初めて農産物の加工や販売を始めたいという方に向けて、必要となる知識や条件など、基礎的なことを学んでもらう研修なのですが、開催に向けた要領の作成や講師の方への依頼、会場の設営などを行っています。

また、農業短期大学校の演習で講師を務めることもあります。食品製造演習の授業では、水田経営学科学生に向けて教壇に立ち、生産した農産物を使い実習を行っています。

Q. 福島県職員として、実現したいこと、目標としていることは何ですか。

A. 「農産物の加工や販売を始めたい」と希望する方が知りたい知識や技術などは多岐に及んでおり、そうした疑問に一つ一つ答え、支援していくことの大切さがわかってきました。特に、初めて農産加工を行う方には、難しい面もあると考えていますので、研修の受講者の方が求めていることを丁寧にくみ取り、一つでも多くの疑問や要望に適切に対応ができるよう、自身の知識・技術を習得したいと考えています。



↑ 授業の様子



Q. 県職員を志望した理由を教えてください。

A. 福島県産の農産物を使った食品の流通に関わり、福島県の農業を支えたいと考えたからです。震災当時、様々な人に助けられた経験から自分も地域のために働き、復興に関わる一員になりたいと思い、福島県職員を志望しました。

Q. 職場の魅力は何ですか。

A. 様々な業務を経験できることが魅力です。研修、実習、会議を通して研修受講者、農産物加工者、学生、関係機関職員など様々な方と関わることができます。自分の成長を実感しながら業務に取り組むことができます。



↑ PH メーターと糖度計の紹介

Q. あなたをキーワードで伝えるとしたら、どんな言葉が思い浮かびますか。

A. 「アグリカレッジ福島」「6次化」「農産加工」「道の駅巡り」

Q. 「アグリカレッジ福島」について教えてください。

A. アグリカレッジ福島こと、福島県農業総合センター農業短期大学校は、農業者を育成する教育機関と農業者が研修する研修機関の2つの役割があります。私が所属する研修部では、就農研修、農産加工研修、農業機械研修を実施しています。



↑ 加工機器の準備